経済学部

教育研究上の目的

本学部は、現代における内外の経済現象を正確に認識し、実践的に対応する能力を培うとともに、経済学・経営学及び商学の基礎学力と応用力とをバランスよく備えた専門的職業人の育成を目的とする。

教育目標

本学の教育目標及び本学部の教育研究上の目的等を踏まえ、経済学部では、現代の経済社会に求められる問題解決能力を備える有為な人材を育成することを最終目標とします。

本学部では、少人数の長所を活かしたゼミナール及び学部独自の初年次専門教育とコース制専門教育を中核に展開しつつ、英語教育と情報教育を重視して、有為な人材としての基礎能力を十分に養成します。さらに、教養教育、キャリア教育を含む全学共通の基礎教育と有機的に連関させることにより、4年間の学修を通じて、コミュニケーション能力と自ら学ぶ力を涵養するとともに、経済現象を正確に認識して、それぞれの課題を見つけ出し解決できる人材を育成することを教育目標として定めます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

本学部のカリキュラムにおいて、所定の卒業要件単位を修得した者は、次に掲げる能力や資質を身につけていると判断し、学位が授与されます。

1．自立した良識ある市民としての判断力と実践力

(1)経済学・商学の専門的知識をもとに、日本及び世界の経済社会の現状を的確に理解し、かつ総合的に判断することのできる能力を身につけている。

(2)変化の激しい現代の経済・企業活動のなかで、時代状況に対応できる実践的かつ体系的な専門的知識と技能を身につけている。

2．国際的感性とコミュニケーション能力

(1)グローバル化する世界経済や企業活動の中で、国際的な視野と国際化に対応できる知識や能力を身につけている。

(2)他者を理解し自らの意見も表現できる、社会人として基礎的なコミュニケーション力や社会に対し柔軟に対応できる豊かな人間性。

3．時代の課題と社会の要請に応えた専門的知識と技能

(1)幅広い教養や専門的知識に基づき、現代社会の情報を収集・分析・考察し、課題を見つけ出し解決できる能力を身につけている。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

本学部では、現代の経済現象を正確に認識し、実践的に対応する能力を培い、経済学・商学の基礎学力と応用力とをバランスよく備えた専門的職業人を育成するために、以下に示した方針で教育課程を編成しています。

1．教育課程の編成・実施

(1)幅広い教養とコミュニケーション能力を身につけることができるように、教養教育と語学教育を重要科目として位置づけカリキュラムを編成しています。

(2)学修に目的意識をもたせ進路を考えながら理解を深めるために、コース制を設けています。経済学科現代経済専攻では、①福祉・環境・公共政策コース、②市場・産業コース、③国際経済・社会コース、経済学科経済データ分析専攻では、①政策分析コース、②市場分析コース、また現代ビジネス学科では、①経営・国際ビジネスコース、②マーケティング・流通コース、③企業・会計コース、の各コ

ースを設けています。
(3)コミュニケーション能力を養成するために、議論や論文作成等を行うゼミナールを2年次の第4セメスターから開始しています。
(4)国際化に対応できる専門能力や技能の向上を図るために国際関連科目を充実させています。

2. 教育の方法と評価
(1)教育課程の実施にあたっては、経済学的知識を段階的、体系的に学べるように、入門科目から応用科目(専門科目)へ適切に科目を配置します。入門科目としては、大学教育への適応を容易にするため、初年次に「FYS(ファースト・イヤー・セミナー)」、「経済入門」、「現代ビジネス入門」、「経済情報処理基礎」、「経済情報処理」を設けています。また、専門科目も学科に関わる科目やコースに基づく科目を充実させ、カリキュラム編成を行っています。
(2)大人数教育を是正し、適正規模の履修者数になるように努めています。
(3)単位制度の実質化を図るため、成績評価の方法及び基準を明確化し、成績評価を厳格化しています。

アドミッション・ポリシー(入学者受入の方針)

1. 大学教育によって培う能力
(1)本学部では、現代の経済現象を正確に認識し、実践的に対応する能力を培い、経済学・経営学及び商学の基礎学力と応用力とをバランスよく備えた専門的職業人を育成します。

2. 本学部の求める入学者
(1)経済学部での学修に必要な基礎的学力を十分に備えている人。
(2)現代の社会や経済問題に強い関心を持つ人。
(3)国際的な問題に関心を持ち、国際的な視野を広げたい人。
(4)自分の将来に対し常に問題意識を持ち、主体的に考えられる人。
(5)向上心があり、学ぶ姿勢のあるチャレンジ精神の旺盛な人。
(6)国籍や人種等で人を差別せず、どんな人をもひとりの人間として尊重できる人。
(7)社会的な不正や不公平を批判できる良心を持ち、社会的弱者等へ思いやりを持つ人。

3. 高校までの能力に対する評価(選抜方法)
(1)一般入試、給費生試験、大学入学共通テスト利用入試では、経済学部での学修に必要な基礎学力を、高等学校での学習の達成度をもとに判断します。
(2)学校推薦型選抜として指定校制推薦入試があり、総合型選抜として公募制自己推薦入試があります。指定校制推薦入試では、勉学意欲に富み、指定校の学校長から推薦された人に対し、面接により選考を行います。また、公募制自己推薦入試では、現代の社会や経済に対して強い興味や関心を持ち、かつ高校等で一定以上の成績を収めた人に対し、小論文等と面接によって選考を行います。